



都市デザイン研究室 2009年を振り返る

先生方の語る、2009年、そして来たる2010年へ向けて

Teachers told us their memories in 2009 and give us messages for 2010.

今年も残すところあと半月。日々活躍されている先生方の2009年のキャンパスにはどんな絵が描かれているのでしょうか?そして2010年に向けて抱くビジョンは?5人の先生方に語っていただきました。

The rest of this year is only half a month.
What kind of picture did teachers draw on their canvas?
And how do they hold the vision for 2010?

text_sakuraba



西村幸夫教授 「常にビジョンを持って将来を見据える」



2009年を振り返って

心に残った都市:南インドタミルナドゥ州ポンディチェリー
フランス植民都市ポンディチェリー。フランス人街とインド人街が截然と分かれた都市風景と、夜間歩道で寝泊まりをしているおびただしい数のホームレス。

心に残った本:『ゆびさきの宇宙-福島智・盲ろうを生きて』(2009年)
現在、先端研で私の同僚でもある福島智教授は、全盲全ろうの方です。外界とのコミュニケーションを遮断されて暗闇の縁にあったときに指文字を母親が考案し、それで他者との接点を回復し、分厚い学位論文まで書いてつい先頃教授に昇任された方です。その前向きに生きる意志をみると、我々の労苦など、物の数ではないことがわかります。

心に残った場所:「都市は意志を持っている」

国内では福井の三方五湖のうちの水月湖。川からも、海からも別の湖がバツプアーとなって、おどろくべきおだやかな湖が形成されている風景。

海外では、アメリカ、ニューメキシコ州サンタフェの中心のスクエア。スペイン風の広場がプエブロインディアン風のファサードに100年くらいかけて変化していった様子は、まさに都市は意志を持っていることを示している。

心に残った出来事:「政権交代」

やはり政権交代。これまで変わらないと絶望していたことが政治の意志で変わり得ることを示してくれた。問題はどのように変えるか。変えるかだから、常にビジョンを持って将来を見据える目を鍛えることが大切だと痛感した。私たちの日々の研鑽はこうした場面で活かすためにあるのだから。

2010年に向けて

2010年は変化の年になるでしょう。ここでお互い、気負うことなく、しかしさらなる高みへ、上っていける臂力を身につけたいものです。来年もよろしく。



窪田亜矢准教授 「2009年に出会った都市たち」(海外編)

2009年を振り返って

「歴史が日常の風景の一齣として存在していた」@ベルリン
壁崩壊をニュースで見ていた学生時代、この都市には必ず都市の都市たる所以があるに違いないと確信し、ずっと憧憬に近い感情を抱いてきた。着いた夜に、直行したブランデンブルグ門の前で、想像を遥かに超えた時間の重みを感じていた。歴史が日常の風景の一齣として存在していた。勇気づけられる遺産も、両肩が沈み込んでしまう記憶も、そこで生きる「私たち」の歴史となっていた。

「多くの出会い、そして都市専門書店!!」

@デルフト、ロッテルダム、アムステルダム、デン・ハーグ

多くの出会いがあったオランダ。笠真希さんに現地の都市デザイン(=都市専門書店。ここにもやっぱり!ととても居心地良い)を教授していただいた。

「昇ってくる太陽を眺めながら、

精神世界の豊かさに浸った」@ジョグジャカルタ

ジャガマダ大学の方々と一緒に、地震被害から再生しているコタゲデ、パティックの生産に基づく文化的景観のギリロコ、屋台がひしめくマリオボロ通りなどを訪れた。スクワッターの改善で高い評価を得たチヨデ川沿いでは、私は日々の仕事においてどのような生活環境を構想しようとしているのか、改めて考える機会となった。

世界遺産のポロブドゥールやブランバナンでは、昇ってくる太陽を眺めながら、精神世界の豊かさに浸った。

2010年に向けて

2010年はいくつかのプロジェクトで特に重要な局面を迎えそうです。皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



中島直人助教 「今、生きている生」



今年、日本人の書いたニューヘイヴンを舞台とした小説を読みたいと思って手にとった、冥王まさ子の『ある女のグリンプス』は、夫柄谷行人のイェール大学への赴任に伴ってニューヘイヴンで暮らした彼女自身の経験に基づいて書かれた小説であった。この街でかつて出会った「生きそびれたもう一つの生」を確かめることで、自分の生の全体像を何とか垣間見ようとする一人の女性の物語であった。ニューヘイヴンでの冥王まさ子は、自分の職を捨て、幼い二人の子供を連れての滞在であった。そして滞在から3年後、39歳のときに、この小説を書き上げた。

彼女の深い葛藤や洞察と比べるとは鳥渡がましい、あるいは意味がないことと承知しながらも、修士1年生の頃から住み続けた大塚を離れることで、この10年の間に否応なく流れていった全ての過去、その時々今思えば偶然としか言えないような数々の選択、巡りあわせについて顧みざるを得なかった自分、そして刻一刻と容易には巻き直せないふうに向きつけられていくこの人生に正直に生きている自分と重ね合わせながら、実はニューヘイヴンに来てから、この小説をじっくりと読んだ。読後、少しだけ間を置いてから、「今、生きている生」に再び夢中になることに決めた。

研究室の皆さんへのメッセージ from New Haven

ゼロ年代末です。自分たちが大きく世の中に出ていくことになる10年代に向けての準備を怠りなく!

忘年会で発表すべき今年の自慢:「二冊の書籍の刊行」

野原卓助教 「都市への眼差しを胸に」

先日、横文彦先生の研究室のメンバーによって、『都市のあこがれ 東京大学横文彦研究室のその後とこれから』が刊行されました。そこでは、旧横研の錚々たる面々によって、当時を語る以上に、「現在の活動の中に研究室での日々がいかに息づいているか」に焦点を当てて論じられており、研究室の中で生まれ、そして、個々の活動へと昇華した「都市への眼差し」が、いきいきと描かれています。

例えば、「研究室」とは不思議なものだと思っています。「都市デザイン(設計)研究室」という呼称は変わらなくとも、2年も経てばメンバーは大きく入れ替わっており、メンバー同士も一期一会。しかし、根底に流れる都市への想いは緩やかに受け継がれ、社会的にも、メンバーが誰であっても、都市デザイン(設計)研究室の一員としての評価が下される。兎にも角にも、世の中に、これだけ志を同じくするものが一堂に介する場はまずないと思います。

2010年に向けて

都市デザイン研究室の日々、そして、その根底に流れる都市への眼差しを胸に羽ばたいていけるような研究室の空気を日々の仲間と紡ぎ合い、そして、その空気を自分の胸で再び受け止めながら、一步一步前に進んでゆきたいと思う今日この頃です。



阿部大輔助教 「濃い~一年!!」

今年、年明けに東大に移籍した後、初の著作の出版、娘の誕生、三専攻の学術的連携を目指すcSURの活動、都市工や建築の演習の指導等、益と正月が一度にきたような1年でした。

cSURでは、寸法研を立ち上げたり、専門も背景も全く異なる特任教員の仲間たちと縮小都市の研究を開始したりと、分野横断型の活動を展開しています。彼らと議論していると、都市は都市計画研究者のためにあるわけではなく、多種多様なアプローチがあることを実感します。連携型研究は一筋縄では行きませんが、研究としての「都市デザイン」がどのような役割を果たしうるのかをじっくりと考えることができるよい機会でもあり、大変やりがいがあります。

7月に訪れたポーランドでは、クラクフからバルト海に面するグダンスクまで2日ばかりで縦断した時の、狭いバンの窓から眺めた風景が印象に残っています。インドのアーメダバードの旧市街の、歩行者と物乞いと車とリキシャとバスとが同一平面上で交差する風景も印象に残りました。バルセロナには複数回訪れる機会に恵まれました。行くたびに違う表情を見せてくれるので、まだまだ飽きる気配がありません。

2010年に向けて

来年は、現代の都市再生の方程式が押し進める都心の風景の画一化や移民との共生の問題など、「ポスト都市再生」時代の再生手法について調べていきたいと思っています。

2009年、都市デザイン研究室 日々変化、日々成長

Following the track of Urban Design Lab in 2009

今年も都市デザイン研究室では、多くの表情が見られました。活動ごとに個性があり、お互いに刺激し合ってきたように思います。今年の活動を整理し振り返ってみると、都市デザイン研究室の持つエネルギーを強く感じます。一つの集団が、これほどたくさんの色を見せていることに驚くと同時に、そこが都市デザイン研究室の魅力であると改めて感じました。

マガジン編集部は、今後もこの溢れんばかりのエネルギーをそのまま伝えていきたいと思ひます。今年は第100号が発行されましたが、さらにマガジンの歴史を作っていきたいと思ひます。
text_suzuki

都市デザイン研究室 情報欄

おし
らせ

Congratulations!!

都市デザイン研究室OB 韓昊英 (Han Haoying) さんが
浙江大学 (Zhejiang University) の准教授に就任されました。
初代編集長の酒井憲一さんの執筆された本が出版されました。
「都市美協会運動と椽内吉胤」(東京農業大学出版会)

研究室全体

UD LAB.



●田中暁子さん
論文奨励賞受賞



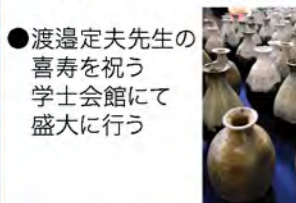
●クラクフ工科大学と交流
●今村洋一さん、山田浩さん
不動産学会湯浅賞受賞



●遠藤新工学院大学准教授
新たな門出を祝う会
●大道亮さん
優秀修士論文賞受賞



●日本建築学会大会
研究室メンバーが奮闘



●渡邊定夫先生の
喜寿を祝う
学生会館にて
盛大に行う



●広州(中国)でISUFに参加



●都市計画学会
厳しい審査を経て発表



浅草

ASAKUSA



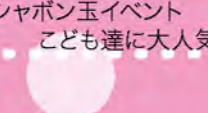
●あじさい祭りにて
アンケート実施



●シャボン玉イベント
残念ながら台風で延期



●シャボン玉イベント
子ども達に大人気



●空き家再生の提案

足助

ASUKE



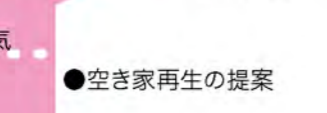
●公民館にてパネル展示
中日新聞に掲載される



●報告展・発表会開催
住民との距離が縮まる



●足助祭り調査
足助の伝統を垣間見る



●まち飛びフェスタに参加

神楽坂

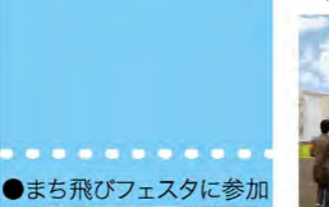
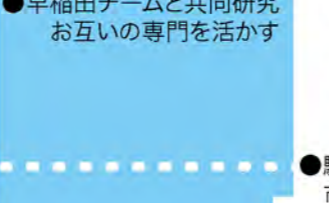
KAGURAZAKA



●「神楽坂粋な住まいと建築塾」
D3鈴木(智)発表



●公開ワークショップ開催
4日間で500人参加



●早稲田チームと共同研究
お互いの専門を活かす



●駅前再開発の提案
市長にプレゼンテーション

佐原

SAWARA



●M1初めての現地調査
江戸の町並みにふれる



●夏祭りでイベントを企画
路地や蔵のライトアップ



●全国町並みゼミ
今年度の活動内容を発表



●駅前再開発の提案
市長にプレゼンテーション

高山

TAKAYAMA



●高山祭りを訪れる
高山の春を体感



●半間第一号完成
実現に向けて一歩前進



●集落調査実施
アーケードの設計も進める



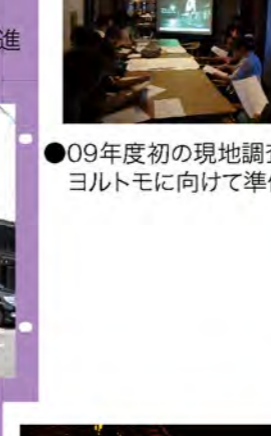
●八幡祭り調査
歴史文化と向き合う

鞆の浦

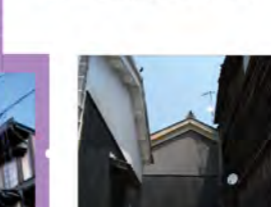
TOMONOURA



●09年度初の現地調査
ヨルトモに向けて準備



●ヨルトモ2009開催
昨年を上回る盛り上がり



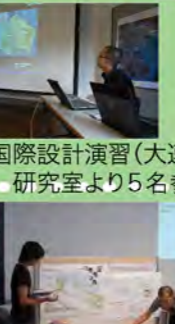
●都市デザインスタジオ(柏)
M1から2名参加



●柏スタジオ中間ジュリー

スタジオ

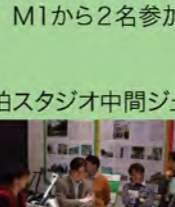
STUDIO



●国際設計演習(大連)
研究室より5名参加



●大連理工大學にてWS



●初めての修論審査会
2年間の研究成果を発表



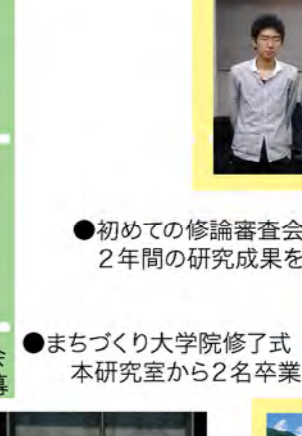
●大連スタジオ最終講評会
建築との共同設計閉幕

まちづくり大学院

MACHIDUKURI
GRADUATE SCHOOL



●演習学内ジュリー
歴史的都市景観を考える



●まちづくり大学院修了式
本研究室から2名卒業



●OB・OG新コーナー誕生
全国の先輩方を取材



●築地にて編集部会議

マガジン

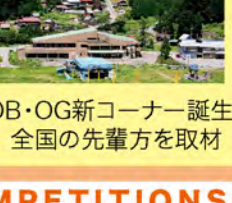
MAGAZINE



●M1 Campus Tour
外部入学4名が散策



●マガジン100号記念
歴代編集長が語り合う



●初めの修論審査会
2年間の研究成果を発表



●まちづくり大学院修了式
本研究室から2名卒業

コンペ COMPETITIONS

■NOVEMBER
代官山インスタレーション
M1山下の作品が展示

■OCTOBER
愛知建築士会学生コンペ
M1の6名が佳作

■NOVEMBER
LDSE2009優秀賞
M1,B4の6名が受賞

April
May
June
July
August
September
October
November
December